



1月11日は「アルミの日」

約1,700人が来場 盛況に開催！

アルミに触れ、アルミを楽しみました

「アルミの日」が定められて初めて迎える2026年1月11日。東京都港区台場のイベントスペースで、日本アルミニウム協会主催による「アルミの日イベント」が開催されました。快晴の日曜日、午前11時の開場からファミリー層を中心とした多くのお客様で会場は賑わいました。イベントのコンテンツは、「アルミニウムミュージアム～触って学ぶアルミの秘密～」と題した2つのワークショップとVR体験、フォトスポット、そして、アルミ製の弦楽器をプロが奏でるコンサートです。アルミを見て・触れて楽しみ、アルミの音色を味わう1日となりました。



アルミニウムミュージアム 「万華鏡」

アルミホイルを使ってオリジナルの万華鏡を作ります。好きな色、大きさに丸めたアルミホイルで独特のキラキラ感を演出。子どもたちは夢中で取り組んでいました。

アルミを使って
自由に作ろう！

アルミニウムミュージアム 「アルミアートワイヤー」

曲げたりひねったり、自由な発想で遊ぶワイヤーアート。思い通りの形にするのはけっこう難しい！



アルミの工場を
間近に見学！



フォトスポット

奥行きを感じるアルミの鏡の世界で自撮りが楽しめるスポットです。

VR体験

アルミ製品の工場をヴァーチャル見学。その場にいるかのような迫力のある映像が楽しめました。





アルミ製弦楽器による四重奏

砂原千聡さん(ヴァイオリン)、吉澤知花さん(ヴァイオリン)、江藤史織さん(ヴィオラ)、小林世佳さん(チェロ)によるスペシャルカルテット。アルミ製の弦楽器は、新幹線の「顔」をつくり続けてきた山下工業所が打ち出し板金の技術を駆使して製作しました。アルミ製ヴァイオリンを初めて弾いた砂原さんは「音を響かせるコツが徐々に掴めてきました。貴重な経験となりました」と語りました。



第一ヴァイオリンを担当したUACJ・鈴木太一さんの話

「アルミメーカーの社員として、初めてアルミ製の楽器を弾くことができ、感無量です。ヴァイオリンの一部が網目の構造となっているなど細かな工夫がされており、アルミ独特の音の響きがありました」



来場者にはノベルティのほか、アンケートに協力いただくことでお土産が配布されました

アルミ製ギター演奏

東海道新幹線N-700車両に使用されていたアルミからつくられたギター「Re:A-700 Talbo」(東海楽器製)。奏者はアーティストの福家巖さん。



アルミ缶を活用したオブジェ

会場入口を示すオブジェ。飲料用アルミ缶883本を使って製作されています。

アルミエージ No.203 2026 Spring

Contents

1月11日は「アルミの日」イベントレポート	1
特集 アルミを連れて冒険に出よう	3
アルミーノが行く! アルミ缶のLCAをめぐる冒険	11
Number アルミのヒミツを数字でみると?	13

表紙のことは

世界七大陸最高峰(セブンサミッツ)の1つ、アコンカグア(標高6,962m)。アンデス山脈にある南米最高峰で、アルゼンチンとチリの国境付近に位置します。1897年、スイスの登山家マティアス・ツールブリッゲンが初登頂しました。日本の冒険家・九里徳泰氏は大学在学中の1988年に登頂、5,850mからマウンテンバイクによる滑降に成功しました。



マスコットキャラクター「アルミーノ」

再生アルミから生まれた高性能ロボット、**アルミーノ**です!
アルミニウムのように未知の可能性を秘めた蝶の姿をしています。